

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式2】

No. A-71

部門名: カリキュラム・マネジメント	エントリー名: 鹿児島県鹿屋市立西原小学校 教諭 前田 剛 (修了研修名: 令和元年度 カリキュラム・マネジメント指導者養成研修 (第1回))
活動名: チェックからアクションへ ～実態から考えるカリ・マネ～	
解決すべき課題: カリキュラム・マネジメントについてアンケート (Check) をとったところ、自分と関係があるとは思っているが、具体的にどのようなことであるかに対する職員の理解度はあまり高くなかった。【図1・2】今回の改訂の柱の一つであるカリキュラム・マネジメントへの理解度が低いままでは、質の高い教育へとつなげることができない。基本から知りたい、具体例を知りたいという意見があったので、カリキュラム・マネジメントとはどのようなことで、どのように実践すればよいかを考える (Action) が必要だと考えた。	
目標・方針: (1) カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方を理解する。 (2) 1 学期の実態からめざす子供像を設定する。(Check→Action) (3) 2 学期以降のカリキュラムの見直しを行う。(Plan)	
活動内容: (1) カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方 カリキュラム・マネジメントに対する職員の理解を深めるために、カリキュラム・マネジメントの導入された背景から、学習指導要領改訂のポイント、カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方、具体的な実践例の紹介を行った。【図3】 (2) 子供の実態を基にしためざす子供像の設定 1 学期の子供たちの様子を学年部で振り返った。その実態 (Check) から、2 学期以降の教育活動でどのような子供たちを目指していくか考え【図4】、めざす子供像を学年ごとに作成 (Action) した。【図6】 (3) カリキュラムの見直し【図5】 めざす子供像に向け、子供たちをどのように育てていくか (Plan) 考えた。【写真1】まずは、中心となる活動 (生活科や総合的な学習の時間等) を設定し、その活動でどのように力をつけていくか考えた。そして、他教科等の内容で関連のある単元を洗い出し、それらを関連させながら指導を行うことにより、学校全体の教育の質が向上し、子供たちの力を向上させることができると考えた。【図6】	
活動の成果: 研修後のアンケートで以下のような感想をいただいた。(アンケートの数値結果は【表1】参照) ○ 自分たちでカリキュラムを考えるのは、意見交換にもなるし、とても楽しく感じた。先の目標に対して、どうやっていくのか、今の目標も具体的に見えてよかった。 ○ 今後の活動について、具体的に話し合いをしたことで、2 学期が楽しみになった。話し合ったことが少しずつでも実現できるよう考えていきたい。 ○ 児童の実態を踏まえた上でのカリキュラムの見直しであったため、今後に生かせようと思った。普通次年度への見直しはするが、児童の実態が異なるので、今回の研修は有意義だと感じた。 ○ 1 学期の子供たちを振り返って、学級だけでなく学年としての課題がつかめてよかった。 ○ 子供たちの実態から前向きな手立てや活動計画について語れたことがよかった。頑張っていこうと思った。カリキュラム・マネジメントについて理解を深め、職員一人一人が主体的にカリキュラムについて考えることができたと思う。(研修前の理解度 2.1 から研修後は 3.83 へ向上) 【図1・表1】	
アピールポイント (アイデアや工夫): ○ カリキュラム・マネジメントについて、職員の理解を深めることができた。【表1】 ○ 1 学期を振り返ることで、実際の子供の実態を基にして、カリキュラムを見直すことができた。 ○ 夏季休業中の研修で、子供たちのことについてじっくり時間を取って考えることができた。また、2 学期からの実践に生かせる話し合いとなった。 ○ 考案したことの実践については、今後学校評価の中で評価し、次の学期への指導へとつなげていく。その際、数値による評価だけでなく実践について話し合う時間も設けていく。	

図1【アンケート結果1】

カリキュラム・マネジメントの理解度

図2【アンケート結果2】

カリキュラム・マネジメントとの関係性

カリキュラム・マネジメントに対する理解度は、あまり分からない・よく分からないで 80% を占めた。(4 段階評価で平均 2.1 の理解度) 逆にカリキュラム・マネジメントと自分の関係性については、70% を超える職員が非常に関係がある・関係があると答えている。関係性はあるが、よく分からないと感じている職員が多いことが分かる。

図3【カリキュラム・マネジメント3つの側面】

図4【実態把握・目標設定】

図5【Plan のたて方】

図6【考案したカリキュラム・マネジメント】

【目指す子供像】
実態をもとに、どのような力を身に付けさせたいか目指す子供像を考えました。

【中心となる活動】
目指す子供像に近づけるために、中心となる活動を考え、どのように指導していくか話し合いました。

【関連のある活動】
他教科等で関連のある単元を洗い出し、中心となる活動とつながりを持たせた指導を行うようにした。

写真1【考案している様子】

表1【研修後のアンケート結果】

カリキュラム・マネジメントに関する研修		数値が高いほど高評価																										
アンケート結果 令和元年8月20日		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	平均
研修内容	1 学習指導要領改訂のポイント	3	3	3	3	4	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3.65
	2 カリキュラム・マネジメント (説明)	3	4	4	3	4	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3.83
	3 カリキュラムの見直し	4	4	4	3	4	3	3	4	3	3	3	4	4	4	3	4	4	3	4	4	3	4	4	4	4	4	3.58
	4 今後を生かせようか	4	4	4	3	4	3	3	4	4	3	4	3	4	3	4	3	4	3	4	3	4	3	3	4	4	4	3.54